

令和2年度 東海畜産学会シンポジウム 開催案内 (共催：公益社団法人日本畜産学会)

「卵子・精子の形成，受精，そして個体への発生を科学する。」そんな動物発生工学は，私たちの生活にどのように役立っているのでしょうか。私たちの食料となる畜産物の生産に利用されてきた発生工学技術は，近年の著しい科学の進展とともにますます身近な存在になってきています。今回は，動物発生工学の分野で先駆的な研究をされている2名の研究者をお招きし，発生工学技術がもたらすこれからの畜産についてご講演頂く予定です。

本シンポジウムを通して，発生工学研究が将来の私たちの生活にどう関わってくるのか，未来を少し想像しながら今後の発展性について一緒に考える良い機会となれば幸いです。

1. テーマ：発生工学技術がもたらすこれからの畜産 -どう貢献し，どう発展するのか-

2. 日時：12月4日（金） 13:00～15:00

3. 場所：Web開催（詳細はシンポジウム世話人にお問い合わせください）

4. タイムテーブル

13:00-13:50: 基調講演 1 「ウシ精子における精密性状検査法の開発」

講演者：原山 洋先生，神戸大学 大学院農学研究科・教授

14:00-14:50: 基調講演 2 「ゲノム編集家畜生産の技術的視点と応用展望」

講演者：長嶋 比呂志先生，明治大学 農学部生命科学科・教授

5. 参加費無料・申し込み不要

問い合わせ先：シンポジウム世話人

日巻 武裕（岐阜大学応用生物科学部・助教）

himaki @ gifu-u.ac.jp（@は小文字にして下さい）

学会HPも参照ください。

<http://www.tokaichikusan.org/index.html>

主催：東海畜産学会

共催：公益社団法人日本畜産学会

